

【成果情報名】ヒノキコンテナ苗は根鉢の1/2カットで軽量化した苗でも植栽できる

【要約】 300cc 容量のコンテナで育苗したヒノキ苗について、輸送コスト削減のため根鉢を 1/2 カットし、軽量化して植栽してもヒノキ当年の活着及びその後の成長に影響ない。

【キーワード】 ヒノキ、コンテナ苗、軽量化

【担当】 長崎県農林技術開発センター・森林研究部門

【連絡先】 (代表) 0957-26-3330

【区分】 林業

【分類】 指導

【作成年度】 2019 年度

【背景・ねらい】

コンテナ苗は低密度植栽で求められる活着割合の高さ、時期を選ばず植栽できる労働力の分散に貢献し、初期成長の早い品種と組み合わせて下刈省力の低コスト化を図るために必要である。ヒノキは通常 300cc のコンテナによる育苗を進めてきたが、苗木生産の立場からは 300cc より軽量化な 150cc の要望も挙がっている。しかし、150cc 容量のコンテナでは苗木サイズも小さく、大きめの苗を植栽して下刈省力化を図ろうとするこれまでの方向性とは異なることにもなる。

そこで 300cc コンテナでこれまでの規格サイズに育成した苗の根鉢を半分に切除して植栽した時の活着と当年の成長を調査した。

【成果の内容・特徴】

1. 山林とセンター内圃場で各 10 本ずつ根鉢の長さを半分に切除した処理苗と対照苗を植栽した。8 月前後の厳しい環境下でも処理苗の枯損は 10% に収まる（写真 1、表 1）。
2. 樹高の成長は、成長期の過ぎた時期の植栽のため変化は少ないが、圃場における処理苗と対照苗には差が見られ、山林では見られない。圃場と山林の比較では対照苗には差はなく、処理苗には差がみられる（図 1、2）。
3. 根元径の肥大成長については圃場、山林それぞれでの対照苗と処理苗に差はなく、圃場と山林の比較でも差はない（図 1、2）。
4. 根の発達状況は正常である（写真 1）。

【成果の活用面・留意点】

1. ヒノキ普通苗を用いた 2.5 年生 300cc コンテナ苗を供試した。山林は諫早市目代町の県有地である。
2. 処理苗は植える直前に根鉢（長さ 14 cm）を鋏で 1/2 にカット（7 cm）した。根鉢の重量は生重で 1 個約 200 g なので 100 g の軽量化である。
3. 試験期間は 2019 年 7 月 30 日から 11 月 8 日である。
4. 成長については次年度以降も継続調査し、影響を調査する。

[具体的データ]



処理苗 (左) と対照苗 (右) 発根状況 (11 月)

写真 1 根鉢処理と発根状況

表 1 活着状況 (8 月～11 月)

試験区	処理	活着苗	枯損苗
圃場	対照苗	10	0
	処理苗	9	1
山林	対照苗	10	0
	処理苗	9	1

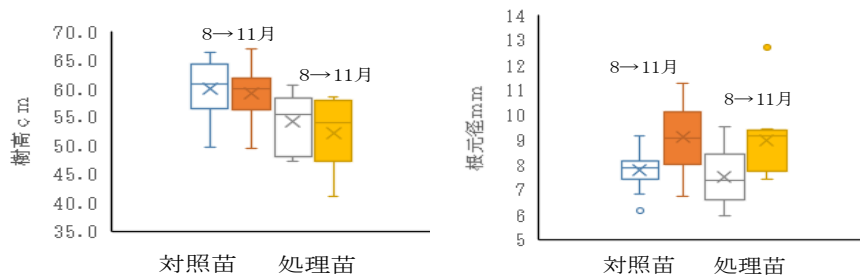


図 1 センター内圃場：樹高成長 (左) ・根元肥大成長比較 (右)

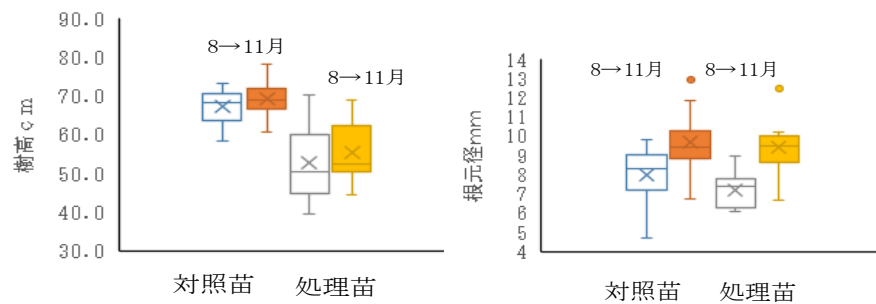


図 2 山林：樹高成長 (左) ・根元肥大成長 (右) 比較

[その他]

研究課題名：成長に優れた苗木を活用した施業モデルの開発

予算区分：県単

研究期間：2019 年度

研究担当者：吉本貴久雄、森口直哉